

静岡県立焼津中央高等学校令和6年度第4回学校運営協議会 議事録

I 概要

- 1 開催日時 令和7年2月12日(水) 午後1時30分から午後3時
- 2 開催場所 静岡県立焼津中央高等学校 応接室
- 3 出席者(委員) 藁科善彦会長、岡本康夫副会長、池田恵一委員、渡邊正博委員
- 4 出席者(学校) 遠山一郎校長、松本一真副校長、河原崎正晴教頭、梶弘幸事務長
- 5 欠席者 稲森錦二委員、後藤陽子委員
- 6 傍聴者 なし
- 7 協議資料 令和6年度学校自己評価委員会資料
令和6年度学校経営計画書(自己評価)(案)
令和6年度学校関係者評価実施用紙
- 8 備考 特になし

II 議題等(次第順)

- 1 校長挨拶・委員長挨拶
- 2 協議
 - (1) 学校自己評価について
 - (2) 意見交換
 - (3) 連絡事項(学校関係者評価について)
 - (4) その他
- 3 閉会

III 協議内容・承認事項等(意見の概要)

- 1 会長挨拶
課題や問題が山積する中ではあるが、教員希望者の減少傾向は大きな課題。生徒とともに教職員にとって魅力ある学校とは何かという視点も必要ではないか。
- 2 議事録署名人の選出
池田恵一委員を議事録署名人に指名し、承認された。
- 3 学校自己評価について
 - ＜藁科委員＞「授業改善に取り組んだ教員」という質問項目に対し肯定的な回答率が低い。質問項目が抽象的なのではないか。
 - ＜校長＞年度当初から交通事故があった。道路交通法の改正もあり、周知をはかっている。
 - ＜岡本委員＞町内会の有志がボランティアで朝晩見守りをしており、危険な交差点がいくつかある。
 - ＜校長＞英語の民間検定試験の成果目標は抽象的だと思われる。かなりお金がかかる試

- 験となっている。中高大連携は理科のみで行ったが、他教科にも広げていきたい。
- <校長>国公立大学でも推薦入試定員が3割近くになり、高校時代に何をやってきたか、が問われている。志望理由書や推薦書の内容が抽象的な生徒が多い。経験を記載する生徒を育てる手立てを考えていく必要がある。
- <池田委員>年間3冊以上読む生徒の目標は70%だが45%と達成できない生徒が多い。
- <岡本委員>焼津市の図書館協議会も務めているが、静岡県目標でも高校生は3冊である。一方小中学生は桁が違い、かなり多い設定になっている。
- <校長>共通テストの問題文は年々長くなってきており、数学や情報のテストを受けるにも読解力が要求される。
- <藁科委員>「主権者・生活者としての自覚が高まった」というのは抽象的ではないか。
「政治や選挙への関心が高まった」生徒は目標に達していないが、順番としては、関心が高まったうえで自覚が高まるのではないか。
- <校長>私学の広報活動が盛んで、無償化や補助金もあり、大阪や東京の公立高校は苦戦している。静岡県も公立高校の魅力化に真剣に取り組んでいかなければならない。
- <校長>超過勤務時間は特殊勤務手当のつく土日の部活動も含めたもので集計に課題を感じている。
- <藁科委員>部活動も、教員が自主的に行っていると思われていて、扱いが難しい。
- <池田委員>仮校舎での生活も大変だと思うが、先生方も体に気を付けて過ごしていただきたい。
- <渡邊委員>大学入試の結果を楽しみにしています。
- <岡本委員>先生方も健康で、生徒が事故なく卒業できるように願っている。
- <藁科委員>生徒には夢中で取り組めた何かが残る高校生活を送って欲しい。

4 その他

学校運営協議会での説明を受けた学校関係者評価を依頼

上記内容を確認しました。

議事録署名人

(氏名) 池田 恵一

(氏名) 稲森 錦二